

夏の干潟の様子

■イシガレイは外海へ

昨年までの調査では7月に入るとイシガレイは7cm程度まで成長し、その後は採集できなくなっていた(Table.1)。これは、成長したイシガレイが外海へ移動すると考えられるが、今年も同様の傾向が認められた。今回の調査で採集できたイシガレイは11匹、平均全長は7.1cmであった。採集個体が少なくなったのは成長した個体が外海へ移動したからではないかと考えられる。なお、これまで見られなかったスズキの幼魚が多数見られた(Fig.1)。

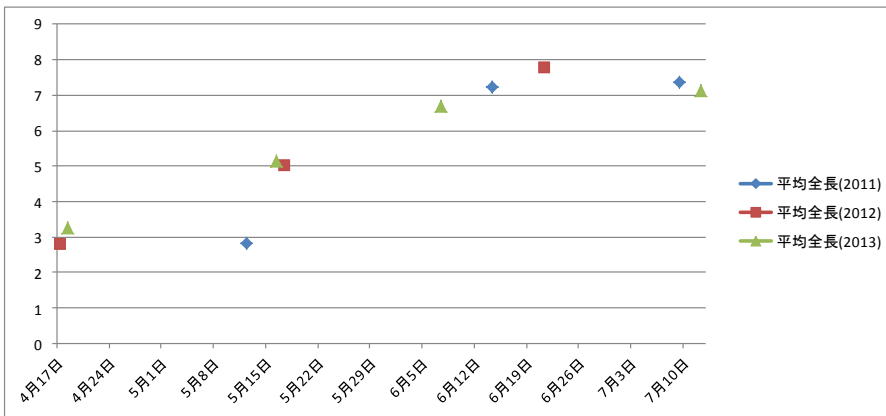


Fig.1 スズキ

■干潟全景

Fig.2は蒲生干潟の全景である(5枚の写真を合成)。今年もヨシが回復する様子は見られない。干潟への水の出入りは主にFig.2、Fig.3の赤丸の部分(同一地点)からであり、海水の影響が強く干潟内の塩分濃度は高いと思われる。川からの水をより多く干潟内へ取り込むことがヨシの回復には必要であると考えられる。



Fig.2 蒲生干潟全景



Fig.3 水が出入りする場所

2013.5.16 科学館ボランティア(サイエンスインタープリター)針生芳知氏撮影